文芸コーナー

今回の児童・生徒のコーナーでは、日吉小のお友達の作品を紹介します。

詩・短歌

二年生になって

2　年
ふせ ゆう子

あのねおかあさん。
二年生に　しんきゅうしたんだから、目あてをつくって、一年生のときより　がんばります。
ふとって、ようふくがきられなくなったので、まい日、うんどうじょうをかけたり、やすみじかんは、そとへでてげんきにあそびます。
うれしいことは、
「おともだちが、いっしょにかけようね。」
と　いってくれたことです。

春をみつけた

3　年
ふせ ひでみ

春をみつけたよ。
つくしは、顔を出して、ねているよ。
おたまじゃくしも、大きくなって、
元気よくおよいでいる。
うめの花、
なずなの花、
おおいぬふぐりの花も、
顔を出してさいたよ。
春は、ぽかぽかあったかい。
だから、花は、すぐ、さくよ。
春は、
おこりたくても、おこれないよ。
それは、花が、たくさんさいているから、
心も、おこる気には、なれないんだよ。
春は、さむくもないし、あつくもない。
わたしは、春がすきだよ。

春がきた

4　年
田山　博之

春がきた。
風もあったかくなって、
花のにおいかな。
いいかおりがする。

土をさわってみると、
外の空気よりあったかい。
やっぱり春は、むし暑くもなく、
そう寒くもなく、
ちょうどいいな。
春のあったかくて強い風は、
電線にさわると、
「ピーピーピルル――」、
って音がする。
春は、
風に運ばれてくるんだな。

プラネタリウム

5　年
越川 りつ子

すこしすると、もうそこには何千という
星が輝きだした。
丸い大きなドームに、きらきら光る一番星。
北の空高くのぼる、北極星。
そして北斗七星、白鳥座。
南の空に目をうつすと純白に光るスピカ。
私めがけて星がふった。
最後に、流れ星を一度だけ見た。
流れるのが早かったけれど、きちんと
お願いできた。
東からピカピカ光る太陽が顔を見せた。
思わず「おはよう」と言ってしまった。
私はプラネタリウムの中にいた。
とてもすばらしい星の世界の中にいた。

岩田　慶雄
里ざくら盛りを過ぎし山峡の
かげりの疾く炉端燃え立つ

椎名　静子
幾筋も鋤き返されし黒土の
湿りし畑に陽炎のたつ

岩沢　芳江
ローカル線人も疎らに寒々し
雪の山里車中より撮る

山崎平八郎
春の雪しづくとなりて光りつゝ
葡萄の小枝つたわり落つる

土屋　好
久々の星の夜空を仰ぎ見て
「明日はやるぞ」と左官業の夫

藤代　敏子
ユーモアを混える歌評も的を
射て米寿の歌人いよよ壮んに

竹内　紀葉
春されば山のなだりのおどろ
陰やわら拳をもたんさ蕨